

お母さんのためのお役立ちコラム

おもちゃのお片づけを“楽しみ”に変える、 わくわく感と自己重要感。

人が行動をする3要素に、①わくわく感、
②危機感、③自己重要感があります。
なかでも①と③を上手に活用すれば、
子どもは「お片づけ=楽しいこと」
と覚えるようになります。

日本ハグ協会会長
高木さと子さん

誰にもできる簡単なコミュニケーション「ハグ」とコミュニケーションを合わせた「ハグニケーション」を提唱。企業、団体、家庭に向けてさまざまな講演活動やイベントをに取り組んでいる。自身も15歳と13歳の男の子のママ。



子どもにとっておもちゃのお片づけは「つまらないこと」ですから「いい加減に片付けなさい!」と危機感を与えなければ、なかなか行動に移すことができません。しかし行動にわくわく感を持たせることで、「お片づけ=楽しいこと」と感じさせることはできます。大人の場合でも、食事作りは好きだけれど、あと片づけは苦手という人はたくさんいますよね? 世の中に楽しいお掃除グッズが溢れているのは、そんな大人にとって嫌なことを楽しくするための仕組みなのです。



子どもに片づけの習慣をつけることも同じで、例えばおもちゃの「お家」を作ったり、時間を決めて「よ～いどん」とゲーム感覚にするな

ど、自らすすんで行動したくなるような環境やルールを作ることが有効です。

また、遊ぶ→片付ける→次も楽しめる、という流れを言葉で伝えることも大切です。「前に〇〇ちゃんがきれいに片づけてくれたから今日も楽しく遊べたんだよ。よかったね!」と教えることで、子どもは「片づける意味」を少しずつ理解するようになります。そして頑張った後には「きちんと片づけてくれて、ママ嬉しいなあ」と、笑顔で声をかけてあげましょう。自分の行動が役に立つことで、母親から認められる経験をします。これは子どもの承認欲求を満ちし、「自分は大切な存在だ」と実感できるのです。これが人に行動を促す3要素のひとつ「自己重要感」です。気をつけなくてはいけないのは、目的が褒められるためにならないこと。片づけの意味をきちんと伝え、何より親自身がその習慣を持つことが大切です。